

SHIRAKOBATO

しらこぼ



1993. 4

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 108

日本野鳥の会 埼玉県支部

憧れのバードアイランド 三宅島

榎本秀和（鴻巣市）

伊豆諸島の中ほどにある三宅島（東京都）は、バードウォッチャーにとってはまさしく憧れの島である。埼玉県支部では、1988年以来毎年4月下旬に探鳥会を行なっているが、今年も今月23～25日に行なわれる探鳥会に先立ち、担当リーダー自ら三宅島の魅力をご紹介したい。

はじめに

東京港から南へ約 180km、定期船で6時間ほどの洋上に黒潮洗う三宅島がある。面積は 55.5km²、周囲35kmのほぼ円形の火山島で、島の中心にそびえ立っているのが雄山（おやま、標高814m）である。島の人口は 3,955人（昨年4月1日現在）、全島で一村（東京都三宅村）を形成する。

島の気候は温暖多雨の海洋性で、常に吹きつける潮風と火山性の土壌とがあいまって特有の植物相を形づくっている。しかも島じゅう緑がたいへん濃く、今なお残る原生林に見られるような自然の豊かさが、バードアイランドと称される所以であろう。

さて、船が島に着くのは朝5時近く。まだ薄暗い岸壁に降り立てば、きっとイソヒヨドリのさえずりが迎えてくれる。以下、探鳥会当日の行程を追いながら、探鳥のポイントをご案内することにする。

大 路 池（たいろいけ）

探鳥会でまず訪れるポイントが大路池である。池は古い噴火口跡に水が溜ってできたもので、四方を囲むうっそうとした原生林が独特の雰囲気をかもし出している。池を一周する遊歩道は絶好の探鳥コースで、あたりの木々から降り注ぐ野鳥のさえずりのシャワーは、バードウォッチャーならずともまさに感激！である。アカコッコ、イイジマムシクイ、コマドリ、ミソサザイ、ウグイス、カラスバトなど野鳥の生息密度も高く、声だけでなく姿を確認するチャンスも多い。水面や岸边には水鳥も見られ、またミサゴやサシバといった猛禽に出くわすこともある。

池を見下ろす高台では、今年7月オープン

予定で野鳥館の建設が進められている。バードアイランドにふさわしい施設として整備・活用されることを期待したい。

富 賀（とが）ネ申ネ土

いったん宿に戻って朝食を済ませた後、村営バスで富賀神社を訪ねる。

伊豆諸島を創造した事代主命（ことしろぬしのみこと）を祀る富賀神社は、静岡県三島市の三島大社の本宮という格式の高い神社で、その境内には木々が生い茂り、それだけで何か野鳥に出会えそうな感じがする。

神社の前の道を辿って行くと前方にだんだん海が広がって、やがて間鼻（まはな）の断崖に出る。沖にはオオミズナギドリが群を成し、背後の低木林から聞こえる声はウチヤマセンニュウ（従来はシマセンニュウの亜種とされていたが本稿では別種とする）だ。頭上ではアマツバメの乱舞が見られるだろう。

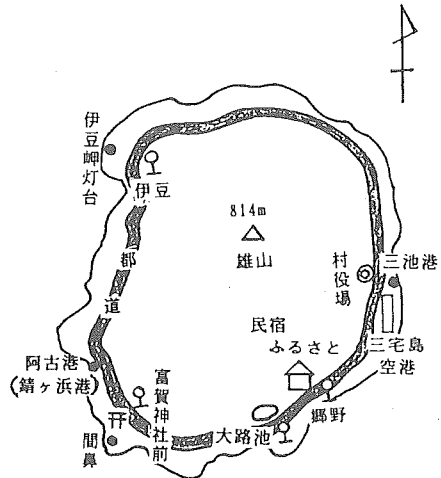
伊 豆 岬

まだ時間は昼前。再び村営バスに乗って、今度は島の北西の伊豆岬まで足を伸ばそう。

バスを降りたら伊豆岬灯台を目指して歩く。白いこじんまりとした灯台の向かいにはあづま屋があって、昼食を取るのにちょうど良い。海側のベンチに陣取って、灯台や大海原を眺めながらの弁当はまさに格別である。

岬は、草地や低木林となっていてウチヤマセンニュウなどが見られる。海岸の岩礁ではシギ類を期待しよう。以前、メリケンキアシシギが出たのもこの場所だ。沖合にはカツオドリも姿を見せてくれることだろう。そのほかにも、ここでは意外な野鳥との遭遇があるかもしれない。最近では、珍鳥の出るポイントとしても知られているようである。

三宅島 (東京都三宅村)



夜の探鳥

埼玉県支部の定宿は大路池にもほど近い民宿「みるさと」である。夜は、宿のおじさんが獲って来てくれた新鮮な海の幸と、島の焼酎で鳥談議に花が咲くことになるのだが、夜の探鳥にも出かけた。

星空の美しさに感動しながら、三宅高校の脇の林道を奥へ奥へと進む。今時なかなか体験できない真の闇の中では、アオバズクが鳴き交している。

「ミャー、ミャー」。突然、空中から異様な声が襲って来る。「来たっ!」。オオミズナギドリの子の群(ねぐら)入りだ。日中を過ごした海上から雄山を目指して戻って来るのだろうか。星明りの中を、文字通りの鳥影が次々に通過して行く。

船上探鳥

翌日は、船の時間までは原則として自由行動とする。宿で休んでいるのも良いだろう。

午後1時過ぎ、乗船。島内での探鳥が終わってもまだお楽しみは残っている。船の上からの探鳥である。来たときと違って帰りは昼間なので、東京港へ着くまでの間、航路に現われる海鳥を存分に楽しむことができるわけだ。

さて、海鳥を見るなら海は静かすぎない方が良い。ウミツバメなどはストームペトレルと呼ばれるぐらいである。その日の気象・海象の条件にもよるだろうが、何が飛び出すか予想のつかないところが船上探鳥のおもしろ

さなのだ。ニューバード(いわゆる「一種増やした」ときの、その鳥)を稼ぎたい人にはぜひともお勧めしたい。

船室に荷物を置いたら行動開始。甲板上は風が吹きつけるので、長時間の探鳥には防寒に留意した服装が必要である。特に荒天の場合は波濤の飛沫をかぶったりするので、カッパを着ていた方が無難だろう。

ひたすら海上に目を凝らす時間が流れる。期待できるのはミズナギドリ類・ウミツバメ類・アホウドリ類・ウミスズメ類・ヒレアシシギ類・トウゾクカモメ類などなど。あらかじめ図鑑で予習しておいて、出会いのワンチャンスを確実にものにしよう。

おわりに

この十年間だけを見ても、火山噴火や米軍NLP基地問題といった課題に直面して来た三宅島。これから先も「憧れのバードアイランド」であり続けてくれることを祈念しながら、拙い文章を終わることとした。

それでは探鳥会でお会いしましょう。

【参考文献】

- 『ふれあいらんど三宅島ネイチャーガイドブック』鳥類篇、植物篇(三宅村役場)
- 『BIRDER』1992年5月号 特集「アカココメジロヤマガラ三宅島」
- 『野鳥』No.513 特集「三宅島の鳥」
- No.556 「三宅島、バードアイランドの今」(樋口広芳)

1992年秋 埼玉県のタカの渡り

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

はじめに

1992年9月27日(日)、県内6ヶ所(表1)でサシバを中心とする秋のタカの渡り調査が行われました。前日は台風から変わった低気圧をもたらした前線で時々雨がぱらつくあいにくの天気でしたが、当日は大陸から張り出した高気圧から吹き出す北風で朝から晴れ上がった1日でした。

当日のタカの渡り調査

本年は県内のタカの渡りの主要ルートである丘陵地帯と低山地帯の境界周辺、JR八高線の周辺に北から南まで6ヶ所、観察地を設定し調査を行いました。しかし、当日は北西風が強過ぎ、タカの渡りの微気候的な主要因である上昇気流がほとんど発達しなかったため、例年に比べ(表3)、観察数が少なかった(表2)と思われます。

おわりに

調査当日、60名もの会員の皆様の御協力を得た事を感謝致します。

(執筆 小荷田行男)



(松田裕子 小4)

表1 調査地と調査時間

調査地	市町村名	調査者名	調査時間
金鑽神社	神川町	森本國夫 他3名	8:35'~13:10'
鐘撞堂山	寄居町	小淵健二 他12名	8:00'~13:00'
堂平山	都幾川村	小荷田行男他10名	8:32'~13:00'
物見山	東松山市 鳩山町	吉原俊雄 他11名	8:30'~11:45'
天覧山	飯能市	登坂久雄 他17名	8:50'~12:00'
堀之内	所沢市	佐藤方博 他1名	9:00'~13:40'

表2 渡りのタカ類のカウント数

調査地	サシバ	ハチタカ	オオタカ	ツミ	ハイタカ	トビ	チョウゲンボウ	ノスリ	タカ
	シバ	チマ	オカ	ミ	カ	ビ	ウ	リ	S P
金鑽神社	7	-	1(1)	-	-	3(3)	1	-	-
鐘撞堂山	21	1	1	2	2	1	1	3	-
堂平山	6	-	-	-	-	-	-	-	-
物見山	10	3	2	-	-	9	-	-	2
天覧山	31	1	2	-	-	1	1	-	-
堀之内	17	1	1(3)	-	-	-	-	-	-
合計	92	6	7(4)	2	2	14(3)	3	3	2

ただし()は渡りではないと思われる個体数

表3 タカの渡りの本調査日におけるサシバの数

年	日	観察地								
		天候	金鑽神社	鐘撞堂山	堂平山	物見山	白金平	高指山	天覧山	堀之内
1986	10/5	はれ	-	6 (9/23 31)	-	-	-	52	-	-
1987	10/4	快晴	-	4 (9/23 31)	-	28	(10/3 6)	149	-	-
1988	10/2	曇り	-	10 (10/1 150)	-	19	0	1	-	-
1989	10/1	はれ	-	25 (9/23 105)	-	100	14	79	150	-
1990	10/10	快晴	1	(9/23 19)	-	-	-	-	2	-
1991	9/29	曇り 曇り	13	34	-	29	-	21	151	-
1992	9/27	快晴	7	21	6	10	-	-	31	17

(注1) 1990年のデータは本調査日が悪天候のため他の日のデータを示した。

(注2) カッコ内は当年度における最大値とその観察日を示す。

校庭のゴイサギ

大滝早苗 (藤市)

校庭の池にゴイサギの幼鳥が来るようになったのは12月中旬。子供が下校してしまった後の静かな校庭を低く飛んだり鉄棒などにもとまってみたり。

池のまわりを歩きながらくちばしを下に向けて金魚をさがしているのですが、池はあおくにぐり、深いし……、とにかくえさはとれなかったようです。それでも一日おきにやってきては、2～3時間うろろうしたり、昼ねをしったりしています。

元旦の午後、姿を見ましたがその後は数日来なくて1月5日の朝10時頃撮影に成功。いろんな方向から24枚とってこれ1枚だけうまく撮れたと思



います。背景は池足元はコンクリート。シャッターを押した音が聞こえたらしく、ぱっとこちらをふり向いてもすぐには逃げませんでした。

しらこぼと袋づめ?

西岡真美 (保谷市)

はじめにお便りします。

送られてきた『しらこぼと』を一気に読み終わって、さあどこへ参加のもぐり込みをしようかと思案しているうちに、それを手にとって読んでいた父がポツリといいました。

父「野鳥の会ともあろうものが随分ざんこくなことをするもんだ」

私「まさか……、それでどんなことが書いてあったの？」

父「しらこぼとを袋づめするんだと堂々と書いてあるヨ」

私「ええっ」と一瞬反射的にびっくりした

が、すぐに

父「ああ、これか、おれは何十羽も、つかまえてきてやるのかと思ったヨ」でチョン。

そのさわぎが収まったと思ったら、石神井川での矢を射られたオナガガモの報道を見て、「こんなことをする奴は見付け次第、背中に矢を射立ててやるべきだ。」まだ熱血の美老年(尾籠年・ビローネン)ぶりを発揮して息まいていました。

銚子港探鳥会に参加して

八木よし (吹上町)

1月30・31日だけが無風快晴と銚子港探鳥会30名の会員は終始気分上々。しめて46種をチェック。それも珍しい鳥たちが次々登場して大変密度の濃い楽しい旅でした。

「カモメ識別ガイド」等を手引にベテランの方々に助けられオオセグロカモメとセグロカモメ、ウミウとヒメウというように対比しながら識別出来るようになりました。頭上近く乱舞するウミネコやミツユビカモメ、シロカモメ達に愛情をおぼえつつ鳥名の当てごっこを楽しみました。たった1羽のコクガンやワシカモメを万羽の中から見つけ出し望遠鏡をのぞかせてもらった時はただただ驚嘆感動しました。車中でのビデオによる「鳥学習」も忘れっぽい私にとっては大変有難い事でした。

白斑が粹なシノリガモ、浅瀬でエサ探しに忙しいハマシギ、犬吠埼燈台でのバラ色のハギマシコ等どれもこれも素敵でした。私は今回チェック鳥を27種も増やしたことや、一泊旅行を通して鳥にも人にも優しい方々と親交を深めることが出来、充ち足りた気持ちで帰りました。



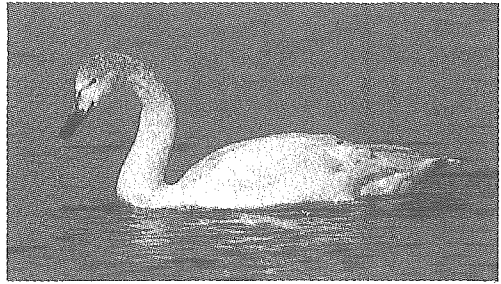
- ゴイサギ ◇1月31日、幸手市外国府間の権現堂桜堤で3羽(田畑孝)。
 アオサギ ◇11月29日、春日部市中野で1羽。当地にやって来るのは珍しい(石川敏男)。
 オシドリ ◇1月2日、寄居町の玉淀川原で約40羽。正喜橋下流、寄居町側の壁面の木をめぐらして利用。(田口浩司)。
 トモエガモ ◇12月27日、戸田市道満調節池で♂2羽♀3羽(駒崎政雄)。
 ヨシガモ ◇1月1日、菖蒲町の昭和池で♂1羽(逸見嶮)。
 ミコアイサ ◇1月10日、所沢市松が丘住宅の遊水池で♂3羽(滝田美恵子)。◇1月10日、戸田市道満調節池で♂12羽♀64羽(駒崎政雄)。
 ノスリ ◇12月27日、戸田市道満調節池で1羽(駒崎政雄)。◇1月17日、神泉村の城峰公園で1羽(田口浩司)。◇2月20日、浦和市秋ヶ瀬の大久保農耕地で越冬中(石井智)。
 ハヤブサ ◇1月17日、志木市の柳瀬川、高橋～栄橋間で1羽。川をかすめるようにして下流から上流へ飛び去る。カモたち大いに騒ぐ(中司隆由)。◇1月22日、川越市鴨田の田んぼの上空で1羽(中司隆由)。
 オオバン ◇1月3日、戸田市道満調節池で2羽(森永徳一)。
 シロチドリ ◇1月17日、幸手市上吉羽の中川で1羽(秋間利夫)。



エリマキシギ(石川敏夫)

- ハマシギ ◇12月25日、川越市の伊佐沼で1羽(中司隆由)。◇2月11日、浦和市秋ヶ瀬公園手前、鴨川浅間橋下流の右岸の干潟で4羽(森永徳一)。
 エリマキシギ ◇12月30日、春日部市の会之堀川、上根橋上流の干潟状の所で1羽。1月31日にも同所で見られた(石川敏男)。
 ヤマシギ ◇1月17日、幸手市外国府間の権現堂で1羽(秋間利夫)。
 タシギ ◇1月20日、幸手市外国府間の権現堂川で1羽(秋間利夫)。◇1月30日、春日部市の会之堀川、上根橋上流で3羽(石川敏男)。◇2月11日、浦和市秋ヶ瀬公園手前、鴨川浅間橋下流の右岸の干潟で2羽(森永徳一)。
 セグロカモメ ◇12月25日、川越市の伊佐沼で2羽(中司隆由)。
 オオセグロカモメ ◇12月5日、志木市の柳瀬川、高橋～栄橋間でセグロカモメと共に1羽(二村英克)。
 ヤマセミ ◇12月30日、坂戸市の高麗川で1羽。当地のヤマセミは健在です(増尾隆・節子)。
 カワセミ ◇1月4日、伊奈町の原市沼で1羽(森永徳一)。
 アオゲラ ◇12月21日、朝霞市の城山公園で1羽(二村英克)。◇1月31日、狭山市の稲荷山公園で♂1羽(久保田忠資)。
 アリスイ ◇2月7日、北本市石戸宿で1羽(佐藤進)。
 アカゲラ ◇1月3日、坂戸市城山で1羽(増尾隆)。◇1月29日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で♂1羽(渡辺喜八郎)。
 オオアカゲラ ◇3月号に掲載された、12月21日、北本市石戸宿でアカゲラ3羽を同時に見ましたという報告をオオアカゲラ♂1羽、アカゲラ♂♀各1羽を同時に見ましたと訂正します。(吉原俊雄)。
 ビンズイ ◇12月27日午前8時、上尾市の大宮ゴルフコースの松の木で1羽。尾をふりふり、時々「ツイー」と鳴いた(立岩恒久)。◇1月31日、狭山市の稲荷山公園で8羽(久保田忠資)。
 ヒヨドリ(白化) ◇2月20日、与野市大戸

で20羽位の群れ中に1羽(石井智)。
 ヒレンジャク ◇2月10日、新座市の平林寺
 で3羽(吉本富美子)。
 イワヒバリ ◇2月4日、大滝村の二瀬ダム
 の堤防上で5羽(山岸昭治)。
 カヤクグリ ◇12月31日、寄居町の鐘撞堂山
 で4羽(田口浩司)。◇1月17日、神泉村
 の城峰公園で1羽(田口浩司)。
 ルリビタキ ◇12月31日、寄居町の鐘撞堂山
 で♂1羽(田口浩司)。◇1月3日、坂戸
 市城山で♂1羽(増尾隆)。◇1月30日、
 狭山市の稲荷山公園で♀1羽(久保田忠
 資)。◇2月5日、狭山丘陵で♂1羽。自
 分の位置から50メートル位離れているため
 か、20分位の間隔で小木にやって来る。そ
 の都度ビデオに撮影する(佐藤進)。
 トラツグミ ◇12月23日、滑川町の森林公園
 で1羽(名なしのゴンベイさん)。
 アカハラ ◇1月10日、所沢市並木の自宅の
 庭で1羽。えさ台に来ます(鈴木実・洋
 子)◇1月11日、北本市の自宅のエサ台の
 下で1羽(吉原早苗)。◇1月15日、志木
 市の柳瀬川、日本レグリー付近で1羽(遠
 藤薫、中村治、渡辺敦)。
 シロハラ ◇1月2日、鴻巣市人形の自宅横
 の梅の木で1羽(内藤義雄)。◇1月17日
 神泉村の城峰公園で2羽(田口浩司)。
 ◇1月23日、狭山市の稲荷山公園で1羽
 (久保田忠資)。
 ウグイス(初鳴き) ◇2月4日、桶川市若
 宮の自宅前の庭で。暖かい春の陽気に誘わ
 れて「ケキョケキョ」と(まだホーが入ら
 ない) さえずった(立岩恒久)。
 ヒガラ ◇1月30日、狭山市の稲荷山公園で
 10羽以上(久保田忠資)。



コハクチョウ(森 政彦)

ヤマガラ ◇1月17日、神泉村の城峰公園で
 3羽(田口浩司)。◇1月31日、狭山市の
 稲荷山公園で10羽以上(久保田忠資)。
 マヒワ ◇12月23日、坂戸市城山で約30羽の
 群れ(増尾隆・節子)。◇12月31日、寄居
 町の鐘撞堂山で10羽(田口浩司)。◇1月
 3日、秩父市の羊山公園で30羽(山岸昭
 治)。◇1月16日、戸田市のJR戸田公園
 駅東口付近の畑で6~7羽。スズメと一緒
 に餌をさがしていた(登坂久雄)。◇2月
 20日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森、秋
 ヶ瀬C区で越冬中(石井智)。
 ベニマシコ ◇12月31日、寄居町の鐘撞堂山
 で♂♀各1羽(田口浩司)。◇1月17日、
 神泉村の城峰公園で♂♀各2羽(田口浩
 司)。◇2月4日、大滝村の二瀬ダムで1
 羽(山岸昭治)。
 ウソ ◇12月22日、秩父市の羊山公園で♂4
 羽♀1羽(山岸昭治)。◇1月17日、神泉
 村の城峰公園で約10羽(田口浩司)。◇1
 月23日、狭山市の稲荷山公園裏口で♀3羽。
 リョウブの実を食べていた(三田長久)。
 イカル ◇2月6日、桶川市若宮の自宅前の
 メタセコイアの木で3羽。ずっととまって
 いたが、シャッター音で「キョッキョッ」
 と鳴きながら飛び去った。(立岩恒久)。

表紙の写真

ネチャーフォトコンテスト1992 入選作

クマガイソウ(ラン科)

かつては大宮台地の竹林でしばしば見られ
 たようですが、近年は絶滅に近い状況です。

孫子の代までも残してあげたい花です。

花の形が、源氏の武者、熊谷直実が背中に
 背負った母衣(ほろ)の姿に似ていることか

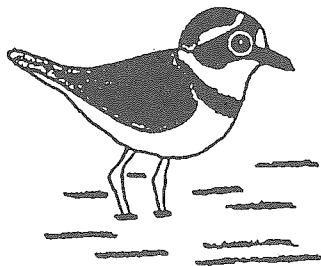
らつけられた名前で、いかにも埼玉県にふさ
 わしい花です。

1992年4月26日 大宮市御蔵にて

タムロン90mm F11 1/30秒

立岩恒久(桶川市)

行事あんない



(佐藤方博)

川口市・差間探鳥会

期日：4月4日(日)

集合：午前9時 JR武蔵野線東浦和駅前

解散：東浦和駅付近にて正午ごろ

担当：手塚、伊藤、笠原、田口

見どころ：お花見探鳥会(I) 通船堀の桜が満開。ツバメがスイスイと大空を舞います。冬鳥たちは旅立ち間近。しばしの別れを惜しみに、おいで下さい。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：4月4日(日)

集合：午前8時30分 北本観察公園駐車場

交通：JR高崎線北本駅西口よりリーダーの指示に従ってタクシーに分乗して下さい(午前8時15分ごろから)。

担当：岡安、榎本、内藤、吉原、立岩、関口

見どころ：お花見探鳥会(II) 花に見とれながらも、耳の方にも注意を集中させていきましょう。オオアカゲラが木をたたく音をお聴き逃しなく。

注意：集合時間が早くなりました。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月11日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:20発または寄居9:03発に乗車

担当：菱沼(一)、林(滋)、関口、菱沼(洋)、斉藤、塚本、中島(章)、川島

見どころ：南の国からこんにちは。北国へ帰

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

るツグミ、シメなどの冬鳥に南国から来るツバメ、コアジサシ。大麻生の4月が一番にぎやかな時。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：4月18日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

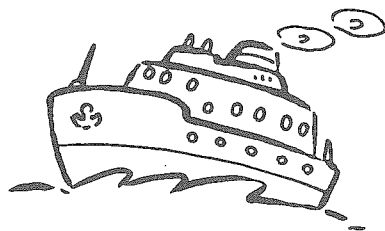
担当：楠見、福井、渡辺、手塚、伊藤、笠原、田口、馬場、岡部、嶋田

見どころ：春霞の見沼たんぼを斜面林の上の公園から見渡した昨年の探鳥会。今年は何のコースにしようかな。夏羽のユリカモメ、イワツバメの乱舞。鳥たちもピカピカの鳥好き新入生を待っています。

三宅島探鳥会(要予約)

期日：4月23日(金) 夜行~25日(日)

定員に達しましたので締め切りました。たくさんのご応募ありがとうございました。参加される方には詳しい案内書を送付致します。



『しらこぼと』袋づめの会

とき：4月24日(土)午後1時～3時ごろ
会場：支部事務局隣の108号室

浦和駅西口から三菱信託銀行角を左折。信号をひとつ直進してから、Y字路を右に。右側茶色5階建マンションの1階。駅から徒歩約5分。

袋づめの会などの会場は、支部事務局107号室の隣の108号室です。どうぞお入りください。

野鳥写真クラブ定例会

とき：4月24日(土)午後3時ごろからの予定ですが、早めに始まり、早めに終わることがあります。

会場：支部事務局隣の108号室

浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：4月25日(日)

集合：午前8時 JR浦和駅西口バスロータリー(集合後バスで現地へ、バス代は約200円程)

担当：福井、楠見、草間、小林(み)、手塚、伊藤、田口、笠原、嶋田、羽石

見どころ：夏羽のアマサギ、雄のキジ、そして道端の小さな花たちが、それぞれの美しさを精いっぱいアピールしています。ムナグロもそろそろ姿を見せる頃。

シギ・チドリ類県内一斉調査

期日：4月29日(木・祝)

日本野鳥の会埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の県内一斉調査を行っています。特に下記の地点では、より多くの会員のご協力をお願い致します。

◇秋ヶ瀬(浦和市・大宮市)

集合：午前9時30分 大久保浄水場の北西角近くの土手の上、水門のあたり。

担当：石井智、登坂久雄

解散は昼近くになる予定。雨天決行です。調査ですので参加費はいりません。いつものしたくでお気軽にどうぞ。

栃木県・奥日光探鳥会(要予約)

期日：5月8日(土)～9日(日)

定員に達しましたので締め切りました。たくさんのご応募ありがとうございました。参加される方には詳しい案内書を送付致します。

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

期日：5月22日(土)～23日(日)

集合：22日午前10時 JR長野駅改札口前

今年は夜行ではありません

交通：特急「あさま1号」(上野7:00、大宮7:22、高崎8:10)に乗車、9:51長野着。

費用：10,000円の予定(1泊3食・現地バス代・参加費・保険料など)他に、往復の交通費。

定員：30名(先着順、県支部会員優先)

申込み：往復葉書に住所、氏名、電話番号、年齢、性別を明記の上、菱沼一充

まで

担当：菱沼(一)、草間、伊藤、林(慎)

見どころ：野鳥三昧ツアー キビタキ、オオルリ、クロジ、サンショウクイなど。すがすがしい高原の朝、小鳥たちのコーラスの中を歩きます。夜は例年どおり手打ちそばと地酒もお待ちしております。

浮島湿原探鳥会(要予約)

期日：6月12日(土)日帰り

集合：午前7時 大宮駅東口あさひ銀行前

交通：貸切りバス利用

費用：7000円程の予定(交通費、保険料、参加費)

定員：25名(先着順、県支部会員優先)

担当：中島(康)、小林(み)

申込み：通常葉書に住所、氏名、電話番号、年齢を明記の上、中島康夫

まで

見どころ：コジュリン、オオセッカ、オオヨシゴイなど浮島ならではの珍鳥との出会いが楽しみです。ヒバリやセッカ、ヨシキリたちが歌う草原のコーラスも聴きもの。

行事報告

12月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 38人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ コガモ オナガガモ チョウゲンボウ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) まずまずの天気恵まれ、92年最後の大麻生。今回は、上流の明戸までのコース。お目当てのコハクチョウは見られなかったが、カワセミは見られた。(林 滋)

12月20日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 70人 天気: 晴

カイツブリ アオサギ オシドリ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ ノスリ コジュケイ キジバト コゲラ ハクセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ トラツグミ シロハラ ツグミ ウグイス ムシクイSP エナガ ヒガラ ヤマガラ シジウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 穏やかな晴天に恵まれ、昨年ほどではなかったが、70人も参加者があった。鳥たちの声を聞き逃すまいと、静かに歩く姿は、他の団体と一番違う点だ。期待に答えて、ルリビタキも登場してくれたし、トラツグミの不気味な鳴き声も聞かれたし、上空をノスリが舞ったし、山田大沼では、うまく隠れていたオシドリを町田幹事が見つけてくれたし、上々の結果であった。この時期には珍し

いムシクイの仲間を2羽見た人もいた。

(森本國夫)

12月20日(日) 浦和市 三室地区

参加: 47人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ チョウゲンボウ コジュケイ バン オオバン タゲリ ハマシギ クサシギ タカブシギ イソシギ タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ シジウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス

(42種) 100回記念探鳥会を7月に盛大に開催した1992年の探鳥会も楽しく終了しました。バンは出現していましたが、今回オオバンが白いオデコを見せました。これで探鳥会の出現鳥は、99種になりました。また、この日は三室の探鳥会では最高の42種が見られ、来年の参加者の幸せを思わせました。(楠見邦博)

12月23日(水) 年末講演会

参加: 40人 講師: 藤本和典(けなリスト)

世界の鳥と日本の鳥、それらを取り巻く環境との関係を、広い視野で分かりやすく語り、「今や個々の問題に対する対症療法ではなく、根本的治療としての社会意識の改革が必要である」という。中身ぎっしり2時間の講演の後、場所を支部事務局に移し、膝つき合わせての話し合い。女性会員らの心づくし、今年もオデンで暮れました。(海老原美夫)

12月26日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 14人

赤塚義正、荒木恒夫、伊藤 宏、海老原教子、海老原美夫、遠藤 薫、大井田史、角田真喜子、佐久間博文、桜庭 勇、塩野谷静子、鈴木啓紀、墨江光子、渡辺喜八郎

1月3日(日) 浦和市 さぎ山記念公園

参加: 82人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ コガモ オナガガモ ハシビロガモ タゲリ クサシギ タカブシギ イソシギ タシギ セグロカモメ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 種類数は、1992年42種、1991年35種、1990年33種だから、今年もほぼ例年並。しかし、タゲリなど各種とも個体数は減少している。新たに造成工事中の公園は生態系保護に留意するというのが、影響が心配。それにしても、参加者数はこのコース過去最高。ちなみに、1992年59人、1991年53人、1990年62人。野鳥の減少とバードウォッチャーの増加の相関関係は？ するどく難しい問題に直面しつつも、好天に恵まれて、探鳥会後の懇親会は、公園の一角でまさに新春の気分。(海老原美夫)

1月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 37人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ コハクチョウ マガモ コガモ オオタカ コジュケイ イカルチドリ クサシギ イソシギ ユリカモメ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 天気が心配されたが、参加者が集まる頃には薄日がさしてきた。挨拶もそこそこにシメとジョウビタキがお出迎

え。幸先のよいスタート。ウグイス、カシラダカ、カワセミを見て、頭上を見上げれば数百羽のカワウ。数年ぶりのアオゲラ、オオジュリン。対岸のオオタカ。仕上げはコハクチョウの群れ。何と幸せな一日。(菱沼一充)

1月15日(金・祝) ガン・カモ一斉調査

ボランティア: 33人 天気: 雨

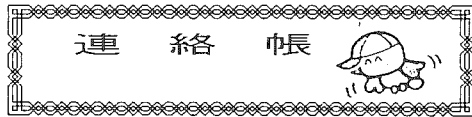
荒木恒夫、石井 智、石井幸男、榎本秀和、海老原教子、遠藤 薫、大武昭雄、笠原伸子、小荷田行男、小林恒雄、小林芳江、駒崎政雄、佐久間博文、佐藤 進、嶋田和江、諸徳寺四郎、手塚正義、登坂久雄、内藤義雄、中島郁夫、中島康夫、中村 治、長谷部謙二、菱沼一充、菱沼洋子、福井恒人、町田好一郎、三田長久、森本國夫、森本陽子、柳原正昭、山部直喜、渡辺 敦 寒い雨の中、県内19ヶ所で調査が行われました。結果は『しらこぼと』に発表予定です。諸徳寺さんからのお便り(即句)をご紹介します。「鴨調査 雨中カウント かじかめり」本当にご苦労様でした。(三田長久)

1月17日(日) 吉見町 吉見百穴周辺

参加: 44人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ オオタカ ハイタカ ノスリ キジ オオバン タゲリ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (45種) 玄関を出ると冷たい北風。「つらい探鳥会になるぞ」と思いきや、現地では予想ほどには風がなくて、この季節としては無難な鳥見日和だった。鳥の方も出るわ出るわ、参加者の数より多い45種。トリ年生まれの担当リーダーが、鼻を少し高くした探鳥会であった。

(榎本秀和)



森林公園の整備について要望

武蔵丘陵森林公園の自然を考える会（谷津弘子代表・支部会員）は、公園内の雑木林が次々と伐採されて栽培種の花木が植えられ、下草も刈られて自然保全型公園から都市型公園へ衣替えしていく状況を心配し、自然と調和した自然とのふれあいの場としての公園という位置づけのもとでの整備を要望して、昨年12月24日、建設省関東地方建設局長宛に要望書を提出、トウキョウサンショウウオの産卵地、オオタカやホンダギツネの繁殖地の保護などを求めました。

公園管理事務所からの連絡により、本年2月12日に所長ら関係者と面談し、これ以上開発の手を入れるつもりはなく、今後は自然環境の保全に配慮した管理運営を目指したいとの回答を得ました。

（同会では、平日観察会も開催しています。連絡先TEL： 谷津）

評議員会で会費値上げなど検討

2月20日（土）～21日（日）の2日間、全国の支部代表者が都内渋谷区に集まって評議員会が開催され、当支部からは、評議員である松井昭吾支部長と、理事である海老原美夫副支部長、小林みどり幹事の3名が出席、松井支部長が座長をつとめた分科会を中心に、本部会費の値上げを大きな問題として、活発な議論が交わされました。

甲府レンジャク調査隊に情報を

去年はレンジャクのはずれ年でしたが、今年はどうやら当たり年のようです。レンジャクを見かけたら、本誌野鳥情報にご連絡いただくと同時に、次のところにも情報をお伝えください。

野沢久方 日本野

鳥の会甲府支部 甲府レンジャク調査隊

TEL

4月の土曜日当番（2時～6時）

- 3日 中島康夫 楠見邦博（普及部会議）
- 10日 山部直喜 海老原美夫（編集会議）
- 17日 立岩恒久 山本真喜子（校正の日）
- 24日 袋づめの会（1時から）

ご寄付と支部賛助会費

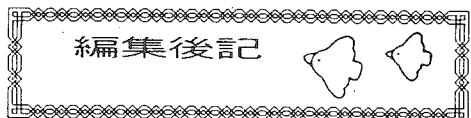
大武昭雄賛助会費 8,000円と寄付金 5,000円、川口由美子 2,000円、楠見邦博賛助会費 8,000円、陶山和良 3,500円、田村62円切手40枚、鶴昭芳 4,793円、藤本和典 7,300円、忘年会参加者 3,325円、村上修三 2,000円、森本國夫賛助会費 8,000円、役員リーダー懇親会参加者 2,750円、ありがとうございました。（50音順、敬称略）

会員数は

3月4日現在 2,137人です。

活動報告

- 2月6日 普及部会議。
- 2月11日 役員会議（司会・田口浩司、7月までの探鳥会予定・その他）。
- 2月13日 編集会議。3月号入稿。
- 2月20日 3月号校正。



今度インドネシアに行くことになったのですが、鬼？の編集長が遺稿を書いてけとあるので、久々の誌面登場。支部に注文してた東南アジアの図鑑も、やっと今日手に入ったので、渡航の準備も万端整ったわけです。ん？仕事の方の準備？……そういえば、そんなのもあったっけ。（森本國夫）

『しらこぼと』1993年4月号（第108号） 定価 100円（会員の購読料は会費に含まれます）
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 東京9-121130
印刷 関東図書株式会社 （本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします）

再生紙使用